

重点施策点検・評価表

3-1-1

基本目標			
3	ふるさととの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課(館)
	① 達人講座の実施		生涯学習課
	活動内容	地域のサークル等の講師(達人)が、小中学生(親子含む)を対象にボランティアで講座を開設し、21講座を実施する。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 今年度新たに3講座(めだかの学校、ぐちゃぐちゃあそび、ドローン・プログラミング学習)を加え30講座実施した。 動物の飼育方法等に関する講座「めだかの学校」が今までにないジャンルとして子どもたちに人気であった。 申し込み方法について数講座申し込みするとすると、申込者の記入漏れ、事務局の入力漏れがあることから、後期募集分から紙だけでなく、QRコードからの電子申し込みができるようにし、効率化を図った。 今後も新たな分野の講座の開催のほか、参加しやすい仕組みづくりに努めていくとともに伝統文化の継承や各サークル活動等のPRに貢献していきたい。 ・令和4年度:22講座(申込者数442人、前年度より 1%増) ・令和5年度:26講座(申込者数527人、前年度より19%増) ・令和6年度:30講座(申込者数512人、前年度より 3%減)	
	課題等	過去4年間、参加者数は増加傾向にあったが、今年度は前年度より減少した。児童生徒数が減少していることのほか、クラブ活動等の練習・大会が盛んになってきたことが要因と考えられる。 来年度以降は申込者数の割合を維持できるよう、現在講師を務めてくださっている先生方に交渉するほか、新たに講座を開講できる講師の先生を探していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	QRコードの申し込み導入による効率化や、児童生徒の胸を打つような講座内容などアイデアが素晴らしいものがある。申込者などの数値については、あまり気にする必要はないと思う。 達人講座を通じて、伝統文化の継承や各サークル活動のPRなど、広く市民に周知していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-1-2

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	② 人材リスト「おおだて人財名簿」及び「大館市出前講座」の充実と活用	生涯学習課
	活動内容	【大館人財名簿】高等教育機関(大学、短大)や学校ボランティア、公民館等から人材を発掘し、特技や知識を持つ市民を「人財」として募集・登録するとともに登録情報の更新を行い、学校や公民館などさまざまな学習活動の場で活用を促す環境の整備を図る。小中学校25校、社会教育施設等17か所に名簿を配置するとともに、市ホームページも更新する。(活動報告書を提出していただき、実績を把握する。) 【大館出前講座】市民の自主的な学習活動を支援するため、市の制度や事業等について市職員が出向いて説明を行う「出前講座(65講座)」を実施し、利用件数150件、受講者数7,000人(延べ)を目指す。
		☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95～100%) ☒ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)
	点検評価	【大館人財名簿】人財名簿への新規登録、活動実績がなかった。これまでに広報やホームページ、出前講座メニュー表に掲載して周知を行っていたが、活動実績は令和2年度より0件である。 令和6年度 登録31人 14団体(令和5年度同様) 【大館出前講座】実施件数、受講人数ともに昨年度より少ない結果となった。内容としては「もしものための救急講座」、「いざというときのための防災講座」等の消防に関する講座、「ボッチャ体験」の実施が多かった。救急講座に関しては、実施件数、受講人数ともに全体の3分の1以上を占めている。メニュー表に記載はないが特別メニューとして実施した内容として、「安心・安全！マイナンバーカードのおはなし」(市民課)、「動脈硬化について」(健康課)、「冬の健康について」(健康課)の3件である。また、昨年実施のなかった「楽しい広報紙づくり入門」「子育て支援の取り組み」の実施があった。 今後も身近な問題や市政の情報などのテーマについて、市民の学習のニーズに応えられるよう市民の学びの機会を積極的に提供していきたい。 令和5年度 実施件数 258件 受講人数 7,514人 令和6年度 実施件数 187件 受講人数 5,683人
	課題等	【人財名簿】平成23年に発行し運用してきたが、年々人財名簿の利用、登録が減少している。令和2年以降利用がなかったため、令和7年度は制度のあり方を検討する。 【出前講座】メニュー65講座のうち、木育講座、救命講習の出前講座が減少している。これは、出前講座を利用せず、木育体験が可能な施設へ直接出向いていることや救命講習は直接消防署へ申し込んでいるケースがあったことによるものである。また、直接利用のない講座もあるので、市民ニーズにあったメニューの見直しとより一層の周知をしていきたい。
学識経験者等意見	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度 人財名簿については、形を変えていく方法が望ましいと思う。市民のニーズがあればそのときに修正し、方向性を見直しても良いと思う。 出前講座は65講座を行っているが、人口が減少している中で何が必要か吟味する必要がある。引き続き市民のニーズに応えられるよう学びの機会を提供してほしい。	

重点施策点検・評価表

3-1-3

基本目標				
3	ふるさとへの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援			
重点施策				
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課(館)	
	③ 公民館事業への青少年の参加促進		中央公民館	
	活動内容	各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全5回延べ70人、ラジオ体操開始・修了大会10団体100人を予定。		
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) わんぱくスクールは全7回延べ参加人数82名。子どもたちの関心が高い「ドローン体験(夏)」、「お菓子作り(冬)」等を中心に講座を開催した。また、子どもたちの保護者が関心を寄せている「子どもの護身術(冬)」、「新しいお札の秘密(冬)」も合わせて開催した。ドローン体験やお菓子作り、子どもの護身術はすぐに定員が埋まり、参加する子どもとその保護者の関心が高いことがうかがえた。 将棋教室は3日間開催し延べ参加人数45名、囲碁教室開催は3日間、延べ参加人数7名、どちらも夏休みに入ってすぐに行ったが、ここ数年どちらも参加者が減少している。対戦を行うことで講師と児童の交流が深まった。 新春書き初め交流会は小学生11名、老壮大学生書道クラブは6名の合計17名参加。老生は小学生それぞれの状況を見ながらアドバイスをを行った。休憩時間に一緒にお菓子を食べながら会話が弾み、異世代交流ができた。 ラジオ体操事業については、4月の開始大会、10月の終了大会のほか、7月にニプロハチ公ドームで大規模なラジオ体操会を開催した。同イベントには広い世代の市民約140人が参加し、ラジオ体操を通じた交流の場となった。		
		課題等	わんぱくスクールは、今後も地域の企業や大学等の協力を図りながら、子どもたちと保護者の関心が高い内容で講座を展開する。併せて他の官公庁にも協力を要請し行政と生活に関連した課題も講座に組み入れていく。将棋・囲碁教室は、子どもたちが参加しやすいように青少年の行事を長期休暇期間に集中させて実施しているが、逆に子どもたちにとってはさまざまな行事が集中しているようである。参加者数の減少は児童数の減少も影響していると思われるが、学校では体験できない魅力あるメニューを考え、参加者増に努めたい。ラジオ体操事業については、参加者の減少が大きな課題である。各町内子ども会への参加要請のほか、小学校への周知も行っていく。	
			取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度	
学識経験者等意見		参加人数については、子どもの数が少なくなっており、夏休みは他の行事もあるため、条件が厳しくやむを得ないところもある。人気の講座もあり、メニュー作りをさらに工夫して取り組んでほしい。これからも期待している。		

重点施策点検・評価表

3-2-1

基本目標			
3	ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	① 生涯学習推進体制の充実		生涯学習課
	活動内容	生涯学習に関する市民の意見・要望を反映させるため、生涯学習推進協議会において協議するとともに地域における学習活動を奨励するため、生涯学習奨励員の自己研さんと活動の充実を図る。社会教育主事の資格取得のための環境整備を行い、生涯学習推進体制へつなげる。(幹事会及び協議会を各年1回開催)	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 生涯学習推進協議会では、7月に幹事会(書面協議)、8月23日に協議会を開催した。令和6年度生涯学習推進計画、社会教育推進計画を案件とし、各委員からさまざまな意見や助言等が出された。今後、各種生涯学習事業の展開・改善に役立てていく。 今年度は、幹事会の意見から大館市生涯学習推進要綱(目的)第1条に記載されている「生涯学習都市『学びあいのまち大館』」は、現在このような宣言や方針はないことから、「こども・おとなが共に学び合うひとづくり」に改正した。 「こども・おとなが共に学び合うひとづくり」は、第8次大館市社会教育中期計画でも基本理念として掲載しており、同計画のテーマである「地域に根ざしたウェルビーイングを目指して」各種事業を展開している。	
	課題等	生涯学習推進本部としてさらなる庁内連携を進めるとともに、今年度の協議会での委員の意見を反映できるようにしていきたい。 生涯学習奨励員には、学習した成果として地域住民が各種行事や学習会などに参加できるよう、学習情報の収集と提供ができるようにしたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	「生涯学習都市『学びあいのまち大館』」は、現在のテーマとしてなじまないように思う。また、生涯学習奨励員の方が、やりがいや特技を生かしてもらいような啓発運動を充実させてほしい。 今まで、さまざまな行事などを継続してきたと思うが、何かを増やしたら何かを減らすべきだと思う。学習成果を地域住民が収集できるよう、学習情報の提供に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-2-2

基本目標			
3	ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	② 大館学び大学事業の展開		中央公民館
	活動内容	学びによる人材育成、専門的知識の習得、若い世代の公民館利用の促進を主な目的として、市民の学びの場を構築していく。 社会人の学び直し受講者数:R6年度目標 800人	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 大館学び大学は令和6年5月に中央公民館事業として開講した。前年度までNPO法人大館学び大学で運営していたポータルサイトを引き継ぎ、働く学部として5月18日から3月8日までの間に36講座を実施した。学びの入り口として、大館で活躍している人を講師に迎え、若い世代の公民館利用の促進も図った。 SNSの活用、市民ホールでのチラシ配布、さらに地方紙への募集記事掲載など情報発信に注力したが、延べ受講者数は436人で参加者数の平均は1講座約12人となった。 リピーターを増やすために、10回受講で1回の無料券を取得できる学生証を発行したところ、134人が登録し2人が無料券を獲得した。	
	課題等	学びに関する要望を把握するため随時アンケート調査を行い、市民のニーズに応じた講座を企画しているが、平均参加者数は12人で決して多いとは言えない。 今後もニーズの把握が必要である。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	生涯学習課が委託していたNPO法人から、中央公民館に事業主体が変更になった影響は大きい、サービスを落とさないようにしなければならない。所管が変わり課題もあるが、縮小された条件の中で、求めに応じていく難儀さは理解できる。 講座数が少なくなることはやむを得ないが、中身の質的な部分を磨き上げていってほしい。	

重点施策点検・評価表

3-2-3

基本目標			
3	ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	③「大学公開講座」、「大学校市民公開講座」の開催		生涯学習課
	活動内容	市民の高度化・多様化した学習要望に応えるとともに、高等教育機関に対する理解を深めるためにそれぞれの特徴を活かした市民の公開講座を各年2回開催する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、7月2日から4日までの3日間で開催し、社会学、接遇、災害をテーマにした講義を実施、延べ132人が受講した。QRコードでも受け付けしたところ大幅に参加者数が増加した。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開市民講座」は、生涯学習強調月間である9月～10月に3回開催し、設計技術体験、WEBの仕組み、木造住宅の耐震診断をテーマに講義を実施、延べ28人が受講した。モノづくりの視点や地震が頻繁に発生する日本の中で、とても重要で関心を寄せられるテーマだった。いずれの講義も私たちの生活に密着した課題や問題を解決するためのさまざまな技術、設計の考え方などを大変分かりやすく講義をしていただいた。	
	課題等	秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、各分野の教授より専門分野の講義を行っていただき、昨年を上回る参加があり、そのうち高校生の参加が目立った。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開講座」は、大学校の特色・専門分野を生かした講義を行っていただいた。大学・大学校の講座は、親しみやすく参加しやすい講義内容で大変好評のため、引き続き関係者と日程調整のうえ、PRと参加募集に努めていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	大学・大学校では、それぞれの特色を生かし、市民が参加しやすい内容の講義を行っていただいていると感じた。 QRコードによる申し込みなど受講しやすい工夫もされており、高校生も参加しているのがよかった。R7年度から多くの市民に知っていただくため、学校祭と同時開催することは、大変良い試みであり、今後に期待している。	

重点施策点検・評価表

3-2-4

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する	担当課(館)
	④ 超高齢社会に対応した生涯学習の充実	中央公民館
	活動内容	公民館サークル活動等の学習成果を生かす場の拡充や、高齢者の豊かな体験・知識・技術・特技を生かす場を充実させるため、子どもとの世代間交流も行う。中央公民館老壮大学105人全10回、各地区公民館高齢者学級開催(11館)。
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 老壮大学は卒業の無い大学であることから、学生の平均年齢は80歳である。60歳代の生き方が多様化しており、60歳代の参加者数は少ない。 老壮大学の講座として、人生100年時代を生き生きと生きるための講話や健康維持の活動がとても好評であり、月1回の参加が生活のリズムを作っているようである。 今年度も城南小学校6年生のゴスペルの発表や、新春書き初め会での書道クラブと小学生の交流などで世代間交流を行った。 今年度実績: 老壮大学 全10回学生105名(前年度全10回102名) ほか全地区公民館(11館)でも高齢者学級を実施
	課題等	老壮大学の運営に関して、運営委員会が主体となって実施してきたが、大学生の高齢化に伴い役員を引き受ける人が激減している。 令和7年度は役員改選で、1人が複数の役を担う形になりそうである。時間をかけて老壮大学の運営方法を検討すべきと思われる。
	学識経験者等意見	老壮大学の役員を引き受ける人がいないことについては、今後時間をかけて検討してほしい。 昔の高齢者と今の同年代の人たちと比較すると、仕事もしており、体力的にも精神的にも違いがある。また、老壮大学という名称は今の時代に合わない所もあり、令和7年度のサブタイトルを「シルバーカレッジ～明るく・楽しく・元気よく～」としたように、変えられるところは変えていってよい。これからも時代の変化に応じて事業を展開してほしい。

重点施策点検・評価表

3-2-5

基本目標			
3	ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	⑤ 障がい者のための生涯学習の推進		生涯学習課
	活動内容	比内支援学校及び障害者施設との連携により、障がい者の生涯学習の機会を創出し、共生社会の実現に向け持続可能な活動の実践研究を行う。 障がい者の生涯学習講座数:R6年度目標7講座	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		文部科学省より事業4年目として受託し、生涯学習連携協議会を3回、生涯学習講座を5回、障害者にとって自らが望む生涯学習活動や余暇の充実を図る活動を、合理的配慮を受けながら行える共生社会実現への実践研究を継続した。 成果として、①市民(支援者)においては、心のバリアフリー、合理的配慮を学ぶ機会を提供し、学びと実践を継続的に行った。②比内支援学校及び就労施設を訪問しニーズ調査を実施、今年度の講座企画へ反映させることができた。③なんでも発表会は、連携協議会関係者、ボランティア登録者、高校生ボランティアなど多くの方が協力・運営に関わり参加者との交流もあり、共生社会への構築につながった。参加した障害者はステージ上で自らの練習の成果を発表、観客から大きな拍手のほかペンライトや応援グッズを持ち寄り応援する姿も見受けられ会場を盛り上げ一体感が生まれた。 講座全体の参加人数は、生涯学習講座に延べ286人が参加し、うち障害者は72人の参加であった。図書館利用支援事業やはちくんオープン(ポッチャ)など障害者の活動を広げる取り組みには延べ458人、市福祉課及び障害者自立・差別解消支援協議会との連携にて行った障がい者サポーター養成講座に72人が参加、うち22人からボランティア登録していただき、5回の講座には高校生を含む延べ14人のボランティアの協力があった。	
	課題等	課題としては、講座参加者同士のつながりの構築、社会教育施設における障害者が参加できる講座企画、障害者サポーターの増員、講座情報の継続的発信。 また、サポートだけでなく、一緒に活動する体験を通じた障害理解の機会提供などがあげられる。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	講座参加者のやりがいや目標が定まっており、良い活動だと感じた。心のバリアフリー、合理的配慮を学ぶ機会を提供し、学びと実践を継続的にやっている。事業開始から4年目だが、「なんでも発表会」はだいぶ内容が充実して事業が展開されている。 国の支援後を見据え課題は何か、事業を自立させていくためには何が必要なのか検討する必要があるのではないかと思う。	

重点施策点検・評価表

3-3-1

基本目標			
3	ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課(館)
	① 学校支援活動事業の推進		生涯学習課
	活動内容	市内の全小中学校を対象に、学校で必要とする活動と地域住民の知識と経験をマッチングさせ、地域の方々のボランティア派遣や地域の教育力を学校教育へ活用する等、地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 学校運営協議会の構成員として地域学校協働活動推進員が参画し、学校と地域の連携・協働を図った。(R6年度は、25校中23校) ①各校の特色ある授業・大館ふるさとキャリア教育の支援、クラブ活動やスキー教室等の学校行事における地域協力者のコーディネートによる教職員の負担軽減。 ②地域課題の解決に向けた活動として、児童・生徒による地域のクリーンアップ活動や防災活動、伝統芸能・郷土芸能の継承、福祉施設での活動など、さまざまな地域と学校の協働活動を推進した。 ③学校ホームページや学校報等により、児童・生徒の様子や地域協力者の活動状況を伝えることで地域協力者の意欲向上や新たな人材確保につなげた。	
	課題等	学校が抱える課題や地域と連携・協働して取り組むべき課題について、十分な情報共有と一体的な推進を図るため、学校運営協議会の構成委員として、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)が参画できるよう周知・啓発に努めるほか、地域学校協働活動に関して市民の認知度が低いことから、より一層の情報発信を行う必要があると感じている。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	子が学校を卒業した親や保護者の学校に対する興味関心度低くなっていく。無理をしなくてもやれることを実践してほしい。また、近隣の市ではPTAの組織ができないなどの課題が出ている。この事業はこういう課題解決のためにも重要な役割を果たしていると思う。 地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課(館)
	② 家庭教育の充実		生涯学習課
	活動内容	家庭教育推進事業の一環として、市内幼稚園、保育園、小中学校を対象に「子育て講座(40講座)」を開催する。また、「おしゃべりひろばひだまり」は家庭教育支援チームと連携し、子育て中の親を対象に育児の悩みや不安の解消を図る。 家庭教育推進事業:R6年度目標1, 850人	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) ☐ 「おしゃべりひろばひだまり」 毎月1回程度、全12回全て開催・・・参加者288人(託児含む) ☐ 「子育て講座」 全40講座のうち40講座実施・・・参加者1, 702人 ☐ 「親育ち！家庭教育支援ネットワークづくり事業」 ・適応指導「おおとり教室」ふれあいお楽しみ会(9/18モルック・かき氷、12/13生け花・餅つき)・・・参加者48人、ボランティア6人 ・助産院イスキア菅原光子先生による孫育て講座・・・計3回、参加者66人 ・学校、家庭、地域連携総合推進事業担当者スキルアップ研修会・・・参加者115人(オンライン参加含む) ・特別支援学級での活動支援・・・計1回、参加者計6人 ・「Let'sGo! 木育ひろば」・・・計11回、参加者643人 各講座 合計2, 874人(3月末現在) 多彩なメニューを実施し、相談対応や情報提供等、保護者が安心して家庭教育を行うための支援を行うことができた。	
	課題等	特別支援学級での活動支援について、今まで講師を外部の方に依頼していたが、今年度は家庭教育支援チームの方に依頼した。来年度も同様に家庭教育支援チームの方に講師を依頼する。また、市内の中学校に希望調査を行い、東中学校だけではなく他の中学校にも対象を拡大する。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	参加者の人数を見ると家庭教育に対するニーズがあることが分かる。子育て中の親への情報提供が重要で、多彩なメニューが多く選択肢が広がっている。親子で参加できる講座を展開し、保護者が安心して家庭教育を行うための支援を継続していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課（館）
	③ 放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室推進事業並びにわくわく土曜教室推進事業の実施		生涯学習課
	活動内容	放課後の児童が「安全・安心」を第一に充実した放課後を過ごせる場を提供する。さらに、土曜日等の支援として体験活動や学習機会を提供する。各施設の児童の交流を図るため、カルタ大会等の交流事業を行う。（年2回）定例会開催（月1回）	
	点検評価	☐ 目標を上回る（達成率100％超） ☒ 目標どおり（95～100％） ☐ 目標をやや下回る（80～94％） ☐ 目標を大幅に下回る（80％未満） 今年度もクラブでの季節の行事やイベントを実施し、児童に対して放課後及び土曜日等の体験活動を提供することができた。 交流事業としては、直営全体でのドッジボール大会は参加者が少なく中止したが、カルタ大会については中央公民館で開催したクラブ対抗の本選において保護者の観覧を実施し、クラブ間での交流の場、親子のコミュニケーションのきっかけ作りに寄与することができた。 定例会は毎月1回開催し、定例会終了後に研修会を2回、各クラブの情報交換会を3回開催した。情報交換会では活発な意見交換がなされ、今後のクラブ運営の手助けとなった。	
	課題等	交流事業においてはクラブ間で参加できる児童数の差が大きくなっており、全ての施設の児童が参加しやすい内容、日程について各クラブと協議し改善を図っていきたい。	取組の方向性
		国の新・放課後子ども総合プランによる高学年児童の受け入れについては、保護者のニーズを確認したうえで、施設設備や面積要件、三密を避ける対策等クリアすべき事案を整理しつつ、児童数の減少とも結びつけながら図っていく必要がある。また、支援員の研修の場の充実を図ることが求められている。	☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	仕事を持つ親にとってはなくてはならない事業で、安心して子どもが過ごせる場所として重要な施設となっている。一方で支援員などが子どもの集団と向き合う必要があり、体力的、精神的にも対応に難儀する場合もあると思う。	
		支援員などの力量の差の解消や悩み事もあると考えられるため、資質の向上と業務のパフォーマンス向上のためにも、研修の充実が必要なものとなる。	

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課(館)
	④ 音楽療法士派遣事業		生涯学習課
	活動内容	継続事業として、市内幼稚園、保育園、小中学校からの派遣依頼を受け、自閉症気味な子や発達が気になる子、特別支援学級在籍児童に対し音楽療法を実施し、児童の情緒の安定を図る。全20回予定。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		派遣要請のあった市内の小中学校の特別支援学級や、気になる子を含めた保育園児を対象に20回の派遣を実施した。 先生と音楽療法士が協力することで、ドラムセットやDJセットなどさまざまな楽器を用意し、一緒に演奏や交流することを楽しみ、精神的な安定とコミュニケーション能力の向上に努めることができた。音楽を介して心と体を活性化させ、発達障害の主な特徴となる人とのやりとり、言葉によるコミュニケーション、行動すること、感情の安定に対して効果が期待されている。 特別支援学級や少人数単位でも利用可能で、いろいろな楽器や楽しい手法を用い、子どもが自らやりたいくなるようなセッションで、コミュニケーション能力や共感力の向上に努めている。	
	課題等	上半期の申し込みが多かったため、例年よりも早く全回数を実施することができた。リピート率も高く今後も音楽療法士の派遣事業を継続していきたい。 また、伝達ミスにより、当日音楽療法士を派遣することができなかった回があった。来年度は依頼先の施設、音楽療法士との情報共有を徹底したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	音楽療法士派遣事業には、大館市に在住している一人の方に依頼され、多忙な中で事業を継続している。音楽を介して心と体を活性化させ、感情の安定に対して効果が期待される。 年20回の派遣は予算面の制約もあると思うが、重要な事業でもあるので継続していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-5

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課(館)
	⑤ 青少年健全育成活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年健全育成推進方針を策定し、関係機関と連携を図りながらさまざまな活動を実施し、青少年健全育成に対する市民の意識高揚と青少年健全育成のための環境整備を図る。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 学校及び青少年関連団体・機関等による青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成推進方針の策定や情報共有・事業連携を図った。 また、7月6日に中央公民館を会場に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催し、Odate Marching Band TEDAOLE and 大館ジュニアバンドによるオープニング公演や、内閣総理大臣メッセージの伝達、秋田県警察本部職員による特別講話を実施し、青少年の非行・犯罪防止と社会を明るくする運動の啓発に努めた。(参集者数149人)	
	課題等	さまざまな団体に参加のご協力をいただいております。目標人数よりも多い人数が参加している。今後も7月第1土曜日に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催することとしたいが、プログラムが毎年同じような内容であるため、工夫を図る必要があると感じている。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	青少年健全育成に対する市民の意識高揚と、青少年健全育成のための環境整備を図るため、市民の集いを行っていることで少年の非行は顕著な減少となっている。 長い歴史を持つ活動であり、定着しているため継続してほしい。	

重点施策点検・評価表

3-3-6

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課(館)
	⑥ 少年相談センターの活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年が抱える悩みや問題を解決するための相談活動や指導員による巡回活動のほか、関係機関・団体・学校等と連携したさまざまな活動を行うことにより、青少年の健全育成を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 青少年や保護者が抱えるさまざまな問題に対応できるよう、電話や面接による相談活動を実施するとともに、教育研究所、おおとり教室、子ども課等の青少年関連機関との連携を図りながら、問題解決に努めた。 また、少年指導員28名により、市内全コンビニ店への子どもの見守り支援活動、神明社祭典に伴う各講練習時の巡回活動、卒業式の市内巡回活動、生徒指導主事協議会との合同巡視などを通して、青少年の健全育成に努めた。 (少年指導員の年間活動延べ200人を予定)	
	課題等	令和6年度の相談件数は延べ402件となっており、前年同期比で減少したものの、ほぼ横ばいで推移している。(前年度実績:413件) また、2人体制による相談センター業務であることから、現状の相談件数に対応できるよう業務内容の見直しを図りたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	少年指導員による巡回活動は、非行の防止に一定の成果が見られたことから巡回活動の中止を検討してはどうか。 引き続き多くの件数を行っている相談業務に集中していくため、積極的に業務内容を見直して効率化を図り、青少年の健全育成に寄与していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-7

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するため、地域とのつながりを生かした活動の充実を図る		担当課(館)
	⑦ 社会教育委員の活動の充実		生涯学習課
	活動内容	生涯学習推進計画や社会教育推進計画等、社会教育推進のための基本方針や重点施策を策定し、教育委員会点検・評価に対する必要な意見・提言を行い、社会教育活動の推進を図る。また、学校訪問・研修会等の開催を周知し、40人以上(延べ)の参加を目指す。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 北教育事務所主催の学校訪問は6回(12校)、市教育研究所主催の授業見学は6回開催された。 北鹿地区社会教育委員研修会は、令和6年10月9日に大館市中央公民館において開催された。本市で行われている「障がい者の生涯学習」事業の取り組みをPRした。 また、本市からは委員長ほか3人が参加し、他市町の社会教育関係委員と「地域とともに歩む社会教育の在り方」について意見交換を行った。 そのほか、当課主催の講座や研修会など計18回の案内に延べ47人が参加し、積極的に活動することができた。学校訪問では各委員から各校の取り組みへの意見、助言など、学校を取り巻く環境の向上に対する熱意を伝えることができた。各種活動からの経験を生かし、社会教育・生涯学習の重点施策や事務事業の点検・評価について協議し、必要な提言を行っている。 令和4年度 訪問等 延べ参加人数 50人(18回) 令和5年度 訪問等 延べ参加人数 54人(23回) 令和6年度 訪問等 延べ参加人数 47人(18回)	
	課題等	学校訪問等を通じて、ふるさとキャリア教育や学校と地域のつながりの中に社会教育委員として関わり、市民版ふるさとキャリア教育の推進に向け、見える活動を展開した。 また、今年度は北鹿地区社会教育関係委員等研修会で他市町村との交流、意見交換ができたこと、さらに東北地区社会教育研究大会に参加し、他県の事例を学ぶことができ充実した活動となった。来年度に向けてより一層研修会への参加の機会を増やしていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	他市町村や県外の方々と情報交換するための研修会・研究大会は、社会教育委員としての職務を果たすため、大変重要な事業のひとつである。 積極的に参加していただくため旅費などの予算措置を行い、一人でも多くの方が参加できるよう教育委員会として支援していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-4-1

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
4	高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する	担当課(館)
	① 「まちづくり会議HACHI」の活動への支援	中央公民館
	活動内容 大学や大館青年会議所などと連携し、「高校生まちづくり会議HACHI」の活動を継続して実施するとともに、「HACHI」メンバーに対し、未来づくりについて意見を出すなど幅を広げる活動へ助言と支援していく。	
	点検評価 ☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 令和6年度は鳳鳴高校生11名、桂桜高校生7名、計18名が参加。大館巡り並びにハチウインの開催のほか、生涯学習フェスティバルでは、バルーンアートや輪投げコーナー等を設置し、来館した子どもたちとの交流の場を作った。特に昨年実施できなかった大館巡りでは、市内の名所や伝統工芸、企業見学と各所で説明を聞き、「大館」を学ぶ良い機会になった。(大館巡りは後日ケーブルテレビで放送された。) 今年度実績:活動回数11回延べ67名	
	課題等 大館巡りでは、より積極的に意見や疑問を発表するよう、質疑応答の動線を作るべきだと感じた。また、活動後期はどうしても3年生の参加が少なくなってしまうため、1、2年生を中心にメンバーを募るのがよいと考える。 ハチウインには社会部以外の鳳鳴高校生が参加してくれたことから、部活動の垣根を超え、参加者増につなげたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見 前年度の取り組みを基に、工夫しながら次年度の事業を実施している。高校生の情報発信は、年配者が思いつかないような方法での発信力もあり期待したい。高校生のまちづくりのイメージがあるが、人づくりというイメージの側面もある。 引き続き、1、2年生をターゲットに参加者を募り、ハードルを少しずつ上げながら更なる展開になるよう期待する。	

重点施策点検・評価表

3-5-1

基本目標				
3	ふるさととの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援			
重点施策				
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)	
	① 「生涯学習フェスティバル」の実施		生涯学習課	
	活動内容	社会教育施設・各種機関・団体等に協賛・参加を呼びかけ、生涯学習に関する実践活動の発表の場や理解する機会を提供し、市民一人一人の生涯学習への意欲を高める。メイン開催日(2日間)の会場となる中央公民館の来場者数目標を2,000人とする。		
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 9月、10月を生涯学習推進月間として、栗盛記念図書館、ほくしか鹿鳴ホール、北地区コミュニティセンターなど各機関、団体等による協賛イベントが開催された。延べ参加・入場者数は8,982人。 9月28日、29日の中央公民館会場では、初めてキッチンカーが出店したほか、みんなの木育ひろば、中央公民館サークル協議会、大館市発明協会、教育研究所等による作品展示、大館桂桜高等学校生徒によるものづくり体験など、生涯学習の周知と実践活動発表の機会とした。2日間の来場者実績は、1,776人となり、目標値をやや下回った。 各団体の生涯学習の実践の場と生涯学習を始める機会を提供し、市民の生涯学習の意欲向上を図ることができた。また、関係機関・団体などの協力により、新規に3つの体験できるコーナーを設置し、マンネリ化しないように対応した。		
		課題等	引き続きキッチンカーなど食事を提供できるブースを設けるほか、さまざまな体験ができるブースをはじめとする市民の「やってみたい」想いを実現できるようなイベントとしたい。 また、行事・イベントが重複しないよう庁内や関係団体などと調整し開催する。	
		学識経験者等意見	新しいものを導入して目標を変更することは良いことであるし、継続的に行うことも大切である。 生涯学習の実践の場である作品の展示、市民の生涯学習の意欲向上を図り、参加者の交流、食の提供などを合わせて行っていただきたい。 同じことを3年やった効果を見極め、効果がないことは見直しすることとときには必要なことである。	

重点施策点検・評価表

3-5-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	② 地区住民や関係団体との連携強化		中央公民館
	活動内容	地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 地区公民館では、運動会やスポーツ大会、文化祭などの行事を地元町内会や婦人会などと協力して行っているほか、他事業にも地域の団体の意見を反映させている。 また、消防署や警察署、危機管理課の出前講座を活用した防災、防犯講座に地域ぐるみで取り組むなどして、関係機関とも連携を図っている。 今年度は、中央公民館を主会場に11月に大館市総合防災訓練が、2月には消防避難訓練が行われ、公民館利用者や学校、町内会などと共催で避難訓練を実施している。	
	課題等	公民館は、地域コミュニティーの拠点であり、地域活動の支援はもちろんのこと、災害時の避難所として位置付けられている。少ない職員数で避難所として機能するためには、地域住民との連携は欠くことができない。 今後もより良い協力関係を築くよう努力し、有事における地区災害対策本部としての役割を想定した訓練を実施していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	公民館はなじみのあるコミュニティの中心地である。地区公民館同士の連携的な動きや、合同で事業を展開しているところは新たな側面もあり評価できる。 地域の防災について、人は問題や課題に直面しないと行動しないものなので、災害による危機的な状況を想定して、引き続き、工夫改善しながら地域の方々と一緒に訓練を続けてほしい。	

重点施策点検・評価表

3-5-3

基本目標			
3	ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	③ 地域コミュニティづくりに向けた支援体制の強化		中央公民館
	活動内容	地域のコミュニティ活動の拠点となっている地区公民館及び分館等の修繕等施設整備を進めていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 今年度は、上川沿公民館のエアコン更新工事(6月補正)や、比内公民館味噌内分館のルームエアコン購入(6月補正)等が実施された。 また、旧青少年ホームの一部解体や、解体に伴う内部の廃棄物収集運搬処理業務も行われた。 今後も、地区住民や公民館利用者等の要望をもとに、施設の修繕や更新を図る。	
	課題等	地区公民館や分館の一部において、老朽化の著しい施設や備品がある。地区住民や利用者の要望を整理し、修繕計画を策定し、あわせて施設管理の負担を軽減する方向での施設改修(例:屋根雪が円滑に排雪できる改造等)に取り組む必要がある。 修繕等の予算確保は今後厳しくなることが予想されるが、地区住民の生涯学習の拠点確保と地域コミュニティ維持のため、優先順位を設定したうえで予算確保に最大限努力する。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	多くの地区公民館を所管しているが、順番に建物を修理したとしても10年も経てば、また改修が必要な場合がある。職員は減り、予算も縮小され、状況は悪くなっていく。課題を先延ばしにしても、いつかは大きな問題に直面すると思うので、先進事例などを参考に工夫して取り組んでほしい。	

重点施策点検・評価表

3-5-4

基本目標			
3	ふるさとと誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	④ 公民館事業の充実と参加促進		中央公民館
	活動内容	公民館の各種事業の内容を充実させ、魅力ある講座を開催する。さらに参加者の動向を見ながらレベルアップを図ることで、活発な公民館活動を展開する。また、既存の事業で参加者の少ない事業でも楽しみに来ている高齢者がいるため、存続できるようにしていく。 社会教育講座:R6年度目標 1講座	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 今年度も上川沿公民館の「春を呼ぶ音楽祭」や十二所公民館の「かまくらやき」など、各地区独自の事業のほか、二井田公民館と花岡公民館合同の館外研修を開催し、他地区との交流を図った。 また、昨年度地区公民館5館が協力して比内公民館で開催した「サタデーナイト公民館ディスコ」は、今年度も3月に開催し大変好評だった。	
	課題等	地域住民のニーズを把握しながら事業の見直し・改善を進める必要がある。そのため、必要に応じてNPO団体や県・市の出前講座、企業のCRS活動(社会貢献)を活用して事業を充実させる。 また、他市町村を参考にしたり、複数の公民館共同による事業をさらに進め、地域を超えた新たな人間関係を形成したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	アイデアを凝らして頑張っているという印象がある。限られた条件の中で各地公民館同士の連携も重要であり、新たな展開につながることを期待する。 地区公民館は、これまで蓄積された地域活動の継承や、世代間交流による人作りなどの重要な課題に取り組んでいることから、引き続き、充実を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-5-5

基本目標			
3	ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	⑤ 「大館ふるさとカルタ」の普及とカルタ大会の開催		生涯学習課
	活動内容	カルタの普及を目的にカルタ大会を開催する。また、カルタを通してふるさとの歴史を学び、郷土愛を育む機会を作る。カルタ大会の運営に高校生ボランティア(目標5人)を募り、児童との交流と審判・読み手の育成を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 今年度で5回目の開催となったカルタ大会では、市直営の放課後児童クラブ8クラブから1年部6チーム、2年部7チーム、3年部6チームの計54名が参加した。各クラブの予選を勝ち抜いた児童が参加し、中央公民館で本選を行った。本選では審判や読み手として、中・高校生3人にボランティアとして協力いただいた。また、空きコートを自由に試合ができる場として開放したことで、児童と保護者が一緒にカルタを楽しみ、保護者にもふるさとカルタに興味を持っていただいた。 カルタ大会に向け、本選に参加する・しないに関わらず多くの児童が大館ふるさとカルタで遊ぶ姿がみられ、普及の一助を担えたものと考えます。	
	課題等	人数不足のため、今年は1クラブ不参加での開催となった。各クラブの人数集めに苦労したが、学年合同チームを作るなど工夫し、カルタ大会に参加していた。カルタ大会を今後も継続して開催していくとともに、大会の時期だけではなく、児童クラブにおいて日頃から大館ふるさとカルタに親しめるよう新たな取り組みを見い出したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	ふるさとキャリア教育に直結する分かりやすい事業で、放課後児童クラブの子どもたちが「大館ふるさとカルタ」を通じて、郷土愛を育むための波及効果が高い事業となっている。 大館市民に周知できるいい活動だと思う。	

重点施策点検・評価表

3-5-6

基本目標			
3	ふるさととの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	⑥ 木育事業の実施		生涯学習課
	活動内容	移動型木育ひろばを展開する。市民交流センターの木育空間を利用した乳幼児から高齢者までの世代間交流の機会創出を図る。 木育事業の回数:R6年度目標27回	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		前年度に引き続き移動型木育ひろば「Let'sGo! 木育ひろば」を、駅なか交流センター、介護老人保健施設、児童センター等で計11回実施し、幼児から高齢者まで延べ643人が木のおもちゃに触れながら楽しい時間を過ごした。 今年度、初の市単独で開催した「みんなの木育ひろば」については、2日間で延べ1,065人の来場があり、多くの子育て中の親子が全国各地の選りすぐりの木のおもちゃと出会い、木の感触や香りを感じながら楽しい時間を過ごし、自然環境の保全や木材の良さを学ぶことができた。 また、開催にあたり市内の木育インストラクター延べ31人、高校生6人にもボランティアとして協力いただき、世代間交流の場にもなった。 【R6年度活動実績】 ①Let'sGo! 木育ひろば 24回 ②出前講座 2回 ③みんなの木育ひろば 1回 計27回	
		課題等	より多くの市民が木に触れる機会を創出するため、木育イベントやワークショップを開催し、木の良さや自然環境の保全を周知していく。 秋田杉をはじめとする市内及び県内の木や自然についても、木育インストラクターによるお話やイベントを通して周知していきたい。
学識経験者等意見	今後の展開が期待できる事業で、インストラクターの活動の場を増やし、木の感触や香りを感じながら世代間交流の機会創出を図っている。 自然環境の保全、木材の良さを学ぶ機会に結びつくため、継続して事業を展開していただきたい。		

重点施策点検・評価表

3-6-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
6	「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める		担当課(館)
	① 図書館運営に関する進行管理		生涯学習課
	活動内容	指定管理者の提案書に基づく適正な運営への必要な支援と指導を行うとともに、第四期大館市読書活動推進計画を指定管理者と共有し、図書館サービスの向上を図り「生涯読書」活動を推進する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 指定管理者による令和6年度事業計画と数値目標を提出してもらい、計画的な図書館及び松下村塾の利用促進と読書の啓発活動に努めている。 利用促進としては、古本バザーや工作体験などの多彩な催しを行う図書館まつりの開催のほか、絵画や絵手紙等の展示会、大館市に縁のある吉田松陰と松下村塾の魅力を幅広く市民に伝える事業など、さまざまなイベントを開催している。 また、読書啓発活動としては、今年で55回目となる大館市読書感想文コンクールの開催や、本を借りてビンゴゲームをする「図書館でビンゴ」、読書の幅を広げる「本のおたのしみ福袋」など、工夫を凝らした読書啓発活動に努めている。 (来館者数: 目標137,500人、実績134,913人) (貸出冊数: 目標198,000冊、実績196,921冊)	
	課題等	人口減少や社会情勢の変化を踏まえながら、図書館等の利用促進や読書の啓発活動として、読書環境の整備や情報発信を充実させ、さらに魅力ある市民に親しまれる図書館運営ができるよう、指定管理者と十分協議しながら支援していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	図書館が文化の発信場所として、また、今の時代だからこそ紙の本に触れることができる安らぎの場として大切である。展示にも工夫がされていると感じる。 読書環境の整備や情報発信を充実させて、さらに魅力のある、市民に親しまれる図書館運営に努力してほしい。	

重点施策点検・評価表

3-7-1

基本目標				
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援			
重点施策				
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		担当課(館)	
	① 芸術文化の鑑賞及び体験機会の提供		生涯学習課	
	活動内容	指定管理者との連携により、ほくしか鹿鳴ホールの自主事業及びさらなる鑑賞の機会と充実を図るとともに、文化庁等が所管する各種事業の情報を学校、文化施設、関係団体へ積極的に周知、活用することにより、地域における芸術文化体験の機会を提供する。		
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 指定管理者による令和6年度事業計画を提出してもらい、計画的な自主事業等の開催と施設の維持管理により施設利用の促進に努めている。 大館ジュニアコーラスやヴァイオリンクラブなどの次世代の担い手育成事業のほか、市民参加型のピアノマラソンの開催や7年ぶりにNHKのど自慢を開催するなど良質な鑑賞機会の提供など芸術文化の振興に努めている。また、木育をテーマに木のおもちゃの遊び場を提供する「もくもくひろば」を定期的に開催し、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に来場してもらえるイベントを開催している。 指定管理者が自主事業として 学校における「文化芸術鑑賞・体験推進事業」を令和7年度事業に申請し、令和7年1月24日に採択された。講演団体は「仙台フィルハーモニー管弦楽団」で、令和7年11月12日に「ほくしか鹿鳴ホール」で実施予定となっている。中学生を対象にした事業で、質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会の確保と子どもたちの豊かな創造力、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、優れた文化芸術の創造につながることを期待している。 (来館者数:R5年度61,714人、R6実績69,075人)		
		課題等	ほくしか鹿鳴ホールも建築から40年以上が経過し、改修等を行いながらも年々経年劣化が目立ってきている状況ではあるが、今後も市民とともに楽しみ・喜び合える文化事業の実施や、多彩で魅力ある集客力のあるイベントを開催し、文化芸術活動の継続・発展に努めていく。	
			取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度	
学識経験者等意見	良質な鑑賞機会の提供など芸術文化の振興に努めている。また、仙台フィルハーモニー管弦楽団には、子どもたちの豊かな創造力、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、優れた文化芸術の創造につながることを期待している。			
	今後も利用される施設であり、大館市民だけではなく他市町村からも来られると思うので、みんなが喜んでもらえる施設として、定期的に設備の補修などを行っていただきたい。			